

パブリックコメント結果について

- 1 実施期間 令和2年2月7日(金)～令和2年3月5日(木)
- 2 実施結果 いただいたご意見：8名（37件）※同様の意見は集約の上、1件として計上
- 3 取りまとめの注意点：

提出いただいたご意見等につきましては、取りまとめの都合上、適宜整理・要約させていただいております。

また、本パブリックコメントに掲載していない内容におきましては、他の政策や事業等に係るご意見としてお伺いし、参考にさせていただきます。

NO	ご意見・ご提案の概要	ご意見に対する市の考え方
【道の駅整備または基本構想全般に対するご意見】		
1	どうしても道の駅を建設するのであれば、市長、企画した市職員、賛同する市会議員が連帯保証人となり、施設管理における赤字補填や職員の給料を支払うべきである。黒字にする自信があるのであれば、情報公開の上、配当を受け取ってよい。	道の駅の整備においては、民間の資金力や事業能力をいかした整備を念頭に、公的資金に過度に依存せず、事業性を確保した上で実施することを基本的な考え方としています。 収益事業については、採算性を重要視し持続性を確立することが必要であり、この点からは民間の活力を最大限にいかすことも重要と考えられることから、管理運営手法における特徴を踏まえながら、基本計画の策定において、具体的な整備検討を進めていく中で、「道の駅あらお（仮称）」に適した運営主体や管理運営手法について検討してまいります。 また、資金計画や費用負担についても、今後の基本計画等において、事業費や管理運営計画、各種補助制度の活用等、総合的に検討してまいります。 なお、P41におきまして、民間の活力導入について取り組んでいくこととしております
2	シティモールと競合することで共倒れになる。 シティモールを道の駅的に利用すれば事足りる。 シティモールの充実を考えるべき。 資金は誰が負担するのかわからない。道の駅を作ればそれで終わりではない。失敗必至である。 荒尾市に道の駅はいらない。	平成29年度に策定された立地適正化計画において、シティモールのある緑ヶ丘地区および荒尾駅周辺地区の2地区を本市における中心拠点とし、生活に必要な都市機能の維持・強化と公共交通ネットワークの形成を図ることにより、市域全体の調和が取れたまちづくりを推進する必要があるとしています。 荒尾駅周辺の道の駅と、緑ヶ丘地区のシティモールがお互いに連携し、本市経済をけん引できるような取組を基本計画やその後の運営において検討してまいります。 また、道の駅あらお(仮称)については、第4章(P18～P20)に記載する地域の課題解決を図る重要な施設と位置付け、整備を推進してまいります。

3	道の駅を含む南新地(大島)の特徴を織り込み、差別化を図る必要がある。本構想には、来客数見込み、施設計画等の骨格写真及び地域特性(南新地の特徴)の記載がない。	南新地地区に整備される様々な施設との機能連携による生まれる新たな価値の創出が最大の特徴であると考えております。 道の駅として、第4章(P18～P20)に記載する課題の解決に取り組むことによって、近隣の商業施設との差別化も図られていくと考えておりますので、基本計画等において、それらの具体的な取組を検討してまいります。 また、来客数見込みや施設計画等につきましても、P41に記載しておりますとおり、基本計画において、具体的に検討してまいります。 なお、南新地地区や機能連携につきましては、P4、P5、P6、P29に記載しております。
4	南新地地区における道の駅は、ゲートウェイ型より地域センター型に軸足をおいて整備した方が良い。	有明海沿岸道路のインターチェンジ延伸が決定しており、交通の要衝となることから、多くの人を呼び込むゲートウェイとしての役割を担うことが必要であると考えております。 また、地産地消の推進や地域公共交通ネットワークの拠点、防災拠点としての役割など、地域センター型の道の駅としての役割も重要であると考えておりますので、基本計画において、具体的な機能や取組を検討してまいります。 なお、これらの考え方については、P19、P20に記載する課題の解決において取り組むこととしております。
5	構想の主軸をはっきりさせ、差別化し、外部アピールができ、収益を上げ、賑わいの町にして、地元還元、発達させる構想でなくてはならない。道の駅に求められる基本機能や農水産業関連他はもとより、将来の知的財産等の形成にも寄与しなくてはならない。	P26、P27に記載しておりますとおり、食によるしあわせと元気の提供、ゲートウェイとしての「道の駅」、防災拠点としての「道の駅」として、整備を推進する考えです。 また、将来の知的財産等の形成については、P19に記載しておりますとおり、「道の駅」がブランドマネジメントを行っていくことが必要であると考えていますので、基本計画において、具体的な機能や取組を検討してまいります。
6	ウェルネスはウェルネス、道の駅は道の駅ではなく、混然一体として機能するようにしなければならず、馬事文化複合施設、文化複合施設にあってもそうである。	ウェルネス拠点における施設間機能連携は、南新地地区に立地する施設機能が互いに連携することで、単体の施設では実現が困難なサービスの提供ができ、利用者の満足度と利便性が高まるなど、相乗効果が発揮され、他にない価値の提供を目指すものです。その連携の中心に道の駅があるという考えでございます。 なお、P29におきまして、施設間機能連携について取り組むこととしております。

7	集客あつての道の駅であり、ニーズをどうやって掘り起こすかが全く考えられていない。 食や買い物だけでは、荒尾の特徴は出ない。農水産業に関するモニュメントの設置や四山神社との連携のあり方などは全く考慮されていない。	P33 に記載しておりますとおり、施設間機能連携やスマートシティ、そして、「食」に関する導入機能（案）の考え方などを取り入れ、「荒尾らしい」、「荒尾ならではの」の唯一無二の施設を整備するこが、道の駅あらお(仮称)における消費者ニーズを踏まえた特徴と捉えておりますので、基本計画等において、それらの具体的な機能や取組について検討してまいります。
【南新地地区における「道の駅あらお（仮称）」の配置に対するご意見】 P6		
8	道の駅は、ウェルネスに必要な広大な公園が確保できる場所（現整備検討街区の南側の区画）に建設すべきである。	施設配置については、P6 に記載しておりますとおり、自然との調和や利便性等を総合的に勘案し、整備検討街区として設定しております。
【「食」に関する導入機能の検討】に対するご意見 P31～33		
9	「超有名店」「超有名がシェフ作った料理」という発想もありがちだが、他力本願、人頼みでほとんど意味がない。	P31、P32 における表内の内容につきましては、市民アンケートや関係者からのヒアリング等でいただいた意見をまとめたもので、「超有名店」、「有名シェフが作った料理」については、様々なアイデアの一つとして記載しております。
10	具体的なサービスとして「タイラギ」が出てくるが、今やほとんど有明海には漁業が成立するほどのタイラギは存在していない。有明海の現状の惨状認識に欠けているのではなかろうか。紙の上の検討ばかりで、農産物、海産物の生産者からの「生の意見」が本案には反映されていない様に思える。	P31、32 における表内の内容につきましては、市民アンケートや関係者からのヒアリング等でいただいた意見をまとめたもので、タイラギについては、様々なアイデアの一つとして記載しております。
11	「あれが作りたい、あれが食べたい」で貫かれている。おもてなしの精神で、市場調査や商品需要動向などを調べた上で、アイデアや手法を構想に示し、そこから、生産者、加工者、消費者、流通等に関与する全員で検討した方が良い考えが出るのではないか。	P41 に記載しておりますとおり、今後の課題として魅力的な商品の供給体制や加工品の開発が必要であると考えておりますので、基本計画等において、具体的なアイデアや手法について検討してまいります。
12	美味しい水産物の提供は目玉になりうる。	P15 に記載しておりますとおり、有明海の珍しい海産物を後世に伝えていく取組が必要であると考えておりますので、基本計画等において、具体的な商品構成などについて検討してまいります。

13	普段使いの「シャー(おかず、惣菜等)」についての言及がほとんどない。若者、一般家庭、農水産業者、高齢者、単身世帯など様々な環境にある人への「シャー」の提供からも考える必要があるのではない。肥満の人に、ダイエットをしている人に、貧血気味の人に、野菜不足の人に、元気がない人等に向けた「栄養補給シャー」、「新ったらシャー」を考えてはどうか。ドライバーなら何を必要とするであろうか。何を置けば立ち寄ってくれるだろうかとかも考えた方が良いのでは。	P26 に記載しておりますとおり、食によるしあわせと元気の提供を、道の駅あらお(仮称)のコンセプトとしております。 また、P32 では、機能性食材/料理の提供(疲労回復につながる料理など)、ベジタリアンメニューの提供、減塩、低カロリーなど栄養士おすすめテーマ型プレート料理(テーマ型: ダイエット・高血圧・デトックスなど) などをご意見としていただいているところです。 具体的なアイデアや商品につきましては、基本計画等において検討してまいります。
【地域連携機能】に対するご意見 P35～		
14	生産者と消費者の安定的で良好な関係を維持し市民の購買力を積極的に活用する策として、例えば、食料品の定期購入(サブスクリプション) 配送販売の斡旋なども考えても良いと思う。	P18 に記載しておりますとおり、生産者と消費者の結び付け、「顔が見える、話ができる」関係づくりが重要であると考えておりますので、いただいたご意見にきましては、基本計画等において具体的な機能や施設を検討する際の参考にさせていただきます。
15	需要動向把握のため農水産業における食材等の供給に関するIoT、ICT化、ライブカメラ配信等は必要であり、また、ネット購入にも力を入れるべきではないか。	P30 に記載しておりますとおり、道の駅においても、先進的技術の活用により、市民や来訪者がより快適で、より便利にすごすことができるような機能や取組を検討してまいります。
16	『飲食施設において AI やドローンを活用したサービスの提供に関するご意見』 ・AIにより注文を受け付け、ドローンで配達。 ・AI ロボットが接客するのカフェでインパクトを出す。 ・AIによる商品の検索(条件に合った商品)。 ・ドローンにより干潟・景観を撮影し、映像をカフェやレストランで放映。 ・ドローンを水鳥の視点で撮影し、映像をカフェで放映。	P30 に記載しておりますとおり、道の駅においても、先進的技術の活用により、市民や来訪者がより快適で、より便利にすごすことができるような機能や取組を検討してまいります。
17	『飲食施設における整備や機能に関するご意見』 ・ここ荒尾でしか食べることのできない、マジックを使った料理。 ・干潟ならではの食べ物。 ・休日の子連れ対応の飲食スペース。 ・海の生き物をモチーフにした飲食店。 ・フードコートで色々な食べ物を一気に食べられる。 ・干潟、水鳥、夕陽などの景観を見ることのできるカフェ。 ・洋風、和風など様々なカフェがたくさんあると良い。	コンセプトを『しあわせと元気の創造ステーション～有明の海と小岱の山で紡ぐ「食ものがたり」』としており、「食」を通して、来訪者にしあわせや元気を提供していきたいと考えておりますので、いただいたご意見にきましては、基本計画等において具体的な機能や取組を検討する際の参考にさせていただきます。

18	『イベントに関するご意見』 ・夏に有明海上花火大会を開催し、多数の出店もありにぎわいをもたらす。 ・年に一回のお祭りを実施する。 ・月に 2 回程度、実際に干潟に入る干潟イベントの実施。 ・プロジェクトマップの実施。 ・マジックキーのイベントを実施し、マジックキーを世界的な知名度にする。	P35 に記載しておりますとおり、イベントスペースを設けて、様々なにぎわいを創出していきたくと考えておりますので、いただいたご意見にきましては、基本計画等において具体的な機能や取組を検討する際の参考にさせていただきます。
【情報発信機能】に対するご意見 P37～		
19	『SNS や動画配信における情報発信に関するご意見』 ・簡易的な情報発信・映像音声編集スタジオを併設。 ・Youtuber 等に時間貸しするなどして、荒尾市での体験についての動画資料作成に使ってもらったり、情報発信してもらったりすることで、市内の情報を集中的に集めて、発信しやすくする。 ・Youtube の生配信などにより、現在の様子を放送する。最新情報を伝える。 ・営業時間中は、WEB カメラの LIVE 配信によって道の駅その日の商品の映像やカフェの様子を映し出す。 ・干潟の満潮時と干潮時の様子をドローンで撮影し、WEB サイトで生配信する。干潟の時間帯も掲載。 ・ドローンを使い、荒尾干潟を生配信。 ・干潟の SNS を作成。 ・インスタ映えスポットの設置。多くの人が見て、興味を持ってもらう。多くの人たちが来てもらえるような環境づくり ・大きなタブレット端末の設置。荒尾のクイズや紹介動画を流し、荒尾のいいところをたくさんの人に、知ってもらう。 ・道の駅内の案内は、音声ナビだけではなく、タブレットも活用。 ・「道の駅」館内や地区内、荒尾市内のスポット毎に QR コードを設置。タブレットやスマートフォンで読み取ると、鳥や干潟の情報を見ることができる。 ・Web カメラで、干潟の生物などの様子を撮影し、観察できる。また、水鳥・湿地センターや道の駅と相互配信する。 ・LINE の友達追加や WEB ページなどで、近あるイベント等の紹介を配信。 ・地区内イベント宣伝を WEB 上で配信し、スマートフォンなどで確認できる。 ・いつでもどこでも干潟等の様子が確認できる有料会員制の WEB サイトを作成し、サイト内の掲示板で他人意見交換などにより情報共有する。 ・干潟の水鳥に小型カメラを取り付け、鳥の視点を LIVE 配信。	P19、P36 に記載しておりますとおり、情報発信機能においては、本市の様々な魅力を発信していく必要があると考えております。情報発信の手法等においては、SNS 等における WEB 上の配信は必須であると考えており、基本計画等において具体的な機能や取組を検討する際の参考にさせていただきます。 <u>なお、今回いただいたご意見を参考に、P19『6.4.2 情報発信施設』におきまして、SNS 等における情報発信に関する文言を追加いたします。</u>

20	『有明海の眺望等を楽しむ機能やサービスに関するご意見』 ・道の駅に誰でも水鳥などが見ることのできる望遠鏡を設置し、水鳥などに興味を持ってくれる方が増えると良い。 ・海を観る望遠鏡を設置して誰でも見られるサービスを作ったら良いと思う。	P6 に記載しておりますとおり、景観や自然環境との調和をいかした施設整備を考えておりますので、南新地地区における他の施設との連携も含め、基本計画等において具体的な機能や取組を検討する際の参考にさせていただきます。
21	『AI を活用したサービスに関するご意見』 ・おすすめの場所やおすすめの商品など、AI による受付インフォメーション。 ・干潟について説明してくれるペッパークんの様なロボットの設置。 ・AI のタッチパネル式看板があるととても便利で良い。 ・AI により道の駅店舗と他店舗の連動。 ・AI の音声ガイドによる干潟の生物の説明や場所の案内。 ・ゆるキャラのようなデザインの AI。センサーで反応し、挨拶やおすすめ紹介。 ・AI スピーカーを各所に設置、聞きたいことを何でも説明してくれる。 ・車のナンバーを AI ロボットが認識、その地方の天気情報(災害等)を提供。 ・QR コードを設置し、スマホやタブレットなどで読み込ませると AI ロボットが音声案内してくれる。 ・VR と AI を掛け合わせ、干潟の生物の情報を伝える ・自分が知らない生き物をカメラに写すだけで、その生き物について説明してくれるカメラを設置した方が良い。 ・長洲町などにはアジアの人々が住んでいるため、アジア各国の言語に対応する AI を設置。	P30 に記載しておりますとおり、道の駅においても、先進的技術の活用により、市民や来訪者がより快適で、より便利にすごすことができるような機能や取組を検討してまいります。
22	『VR を活用した体験等に関するご意見』 ・道の駅で、VR を活用し、鳥の視点から有明海を見渡すことができると良い。 ・道の駅で VR 体験ができると良いと思う。観光スポットと炭鉱全盛期の荒尾を VR 体験してもらうことで、荒尾の歴史を知ってもらいたい。 ・道の駅の体験コーナーとして、昔の荒尾市や現在の干潟の様子など、VR を利用して見ることができる場所を設ける。 ・道の駅の VR を使って海の上や万田坑の世界遺産を歩いたりできる。 ・道の駅とグリーンランドに VR を体験できるアトラクションを作る。	P30 に記載しておりますとおり、道の駅においても、先進的技術の活用により、市民や来訪者がより快適で、より便利にすごすことができるような機能や取組を検討してまいります。

23	『リアルタイム情報の発信に関するご意見』 ・荒尾・大牟田・長洲のリアルタイム状況をまとめて提示する。 ・道の駅で周辺の店舗等の情報をまとめ、営業情報や混雑情報を利用者にリアルタイムでシェアできるようにする。 ・目立つ場所に「道の駅」訪問者の人数や人気商品の売り上げ数などの合計をリアルタイムで表示。	P36 に記載しておりますとおり、情報発信施設においては、様々な情報を提供する必要がありますと考えておりますので、いただいたご意見にきましては、基本計画等において具体的な機能や取組を検討する際の参考にさせていただきます。
【休憩機能に対するご意見】 P37,38		
24	心を休めながら生物などが観察できる建物。	なお、P38 におきまして、リラックスして安らげる休憩スペースの整備について記載しておりますので、心安らげる快適な空間が提供できるよう、基本計画において具体的な機能や取組を検討する際の参考にさせていただきます。
25	沢山の人が来れるように駐車場を広くする。	P35 に記載しておりますとおり、利用しやすい駐車場、駐輪場の整備が必票であると考えております。具体的な広さについては基本計画で検討してまいります。
26	観光バスで立ち寄ってくれるガイドさんにもアピールできるものを作ってはどうか、バス車内で PR してもらう事による宣伝効果は意外と高い。事前調査が必要である。道の駅にドライバー、ガイド休憩室が必要である（公園、潮湯、道の駅等を観光客が利用している間の乗務員休憩室）。売ろう売ろうではなく、消費者目線での食材や施設も考えたらどうか。潮湯利用者に、道の駅割引券を発行してはどうか（逆もある）。	観光バスのガイドさんや運転手も大切な来訪者としておもてなしができるよう、基本計画において具体的な機能を検討する際の参考にさせていただきます。 また、温浴施設利用者と道の駅の施設間連携におけるご意見の割引券の発行については、民間による温浴施設進出の動きをみながら、機能連携や施設運営に係る具体的な検討事項として、参考にさせていただきます。
27	『子育て支援の機能に関するご意見』 ・母親が買い物中に、子供の面倒を見てもらえる子育て施設(スマホにつながった子供相手ロボットなども含む)があってもよいのではないか。 ・子供の面倒を見てくれる施設があると大人の人は安心して、少しの間でもいろいろな所に行けるのではないか。	子育て世代に配慮した施設整備については、国が提言する「道の駅」第3ステージに目指す姿として P10 に記載しており、また、南新地地区には、子育て関連施設の整備も検討していますので、当該施設との連携も含め、基本計画等において具体的な機能や取組を検討する際の参考にさせていただきます。
【防災機能に関するご意見】 P38		
28	収容機能も搭載した施設にする。壊される心配もなく、災害対策も施され、一種の地下シェルターとなるような施設（食料品・日用品など店舗にある品物も緊急時には被災者が利用でき、地下シェルターには災害備蓄品も備えてあるような施設）。	P20、P26、P28 におきまして、防災拠点としての施設整備を行うこととしておりますので、今回いただいたご意見につきましては、具体的な機能を検討する際の参考にさせていただきます。

29	【広域防災機能】 熊本震災発生時、熊本県内の道路網は山間部を中心に寸断され、海上自衛隊のヘリコプターによるものが主となった。阿蘇山系に起因する発災時には、同様の事態が生起する可能性は高く、荒尾市が陸上及び航空支援の玄関口となる可能性は高い。 よって、広域防災の拠点とするためには、災害時に自衛隊や物資輸送用の民間車両を駐車し、かつ自衛隊を中心とする公的機関のヘリコプターが離着陸可能なスペースを確保する必要がある。運用に必要なスペース及び支援施設について、陸上及び海上自衛隊と調整・算出し、整備することが望ましい。 また、定期的に消防・自衛隊などと連携して防災訓練を実施することで、市民生活の安全性を向上させる実効的な防災能力を獲得出来る。	広域防災機能については、国が提言する「道の駅」第3ステージでも目指す姿として P10 に記載しており、本市としても重要事項と捉え、防災関連部署、関係機関等と協議し、必要な機能等を検討してまいりますので、基本計画等において具体的な機能や取組を検討する際の参考にさせていただきます。 なお、P20、P28、P39 におきまして、防災に対する内容を記載しております。
30	「太陽光発電設備」は台風、水害、地震等の断線、水濡れ災害時には高リスクの設備となり、災害時の漏電、火災、例えば昨年の千葉県の山倉ダム事故は稀なケースではない。平時であっても、日照に左右される電源は、防災向けとは言にくい。現状ではまだめづらしく、一時的に観光や研修に利用される可能性はある一方、維持費や更新時のコストを考えると、コストベネフィットは低いように感じる。本施設の導入については、こういった利用を想定しているのかを明確にして、計画を具体化してほしいと願う。	太陽光発電はガソリンやガスなどの燃料の供給がない場合も、太陽が出ていれば発電ができます。それと蓄電池を組み合わせることで、太陽が出ていない間も電気を使えるようになり、非常時の電源を確保することができると考えています。 設置場所や方法、発電量などの具体的な内容につきましては、基本計画の策定において検討してまいります。
31	今回のコロナウイルス感染拡大など、個人対応が不可能な非常事態に対応するために、この施設を食品または人的資源における安全マージン（予備人材・備蓄）を確保する施設として機能できるだけの金銭的また、システムの支援を政府や高次の行政組織に求めてほしいと願う。	道の駅の整備方針として「防災拠点の形成」を掲げており、非常事態に対応するための人員確保や災害備蓄については、防災の観点から重要であると認識しておりますので、いただいたご意見にきましては、基本計画等において具体的な機能や取組を検討する際の参考にさせていただきます。 なお、P20、P28、P39 におきまして、防災に対する内容を記載しております。

【その他の機能（交通拠点機能・サービス機能・環境への配慮等）に関するご意見】 P39		
32	『交通機能サービスに関するご意見』 ・二人乗りの自転車をレンタル制にして荒尾を堪能してもらう。 ・移動を楽にするため(坂道やお店の位置も遠い場合があるため)するため、電動自転車をレンタル型で設置する(お手頃の価格で)。 ・敷地内でセグウェイや電動キックスクーターを貸し出し、ウェルネスタウン内を散歩出来るのも良い。 ・セグウェイや電動キックスターターが荒尾駅や「道の駅」をレンタルし、AIに車両の配置や電気の残量などを管理させたり、利用者への音声ナビや各所案内させる。また、音声案内ナビなどで、そこに住んでいる生き物などを紹介する(名所案内のついで)。 ・セグウェイや電動キックスクーターのレンタルのアイデアはすごく良いと思う。自転車やバイクではなく、近未来感のあるものを取り入れていくことは大切だと思う。	P30 に記載しておりますとおり、道の駅においても、先進的技術の活用により、市民や来訪者がより快適で、より便利にすごすことができるような機能や取組を検討してまいります。
33	『環境への配慮に関するご意見』 ・P8 では、景観への配慮が示されているが、環境問題への配慮事項についても施設整備の基本に取り入れてほしい。 ・エシカル消費への誘導を図る。 ・マイボトルが使えるように道の駅で水を無料配布 ・荒尾干潟や世界的な問題であるマイクロプラスチック問題を目立つように提示。また、物品や包装はビニール素材を環境に適した優しいものとし、来訪者の環境問題に対する意識付けを促す。 ・ゴミ拾いにより、ポイントを貯め、貯まったポイントを道の駅の商品購入に利用できる取組を実施すると良いと思う。それによってゴミのポイ捨てが減少し、ゴミを拾ってくれる方が増えるため、環境に良いと思う。	P8 の「道の駅の登録要件」は、国が定めた要件であり、環境問題についての配慮事項の記載はないものの、道の駅あらお(仮称)の施設整備においては、荒尾干潟に隣接する施設として、環境への配慮した施設整備は重要であると捉えていますので、基本計画等において具体的な機能等を検討する際の参考にさせていただきます。 なお、P39 におきまして、環境へ配慮した機能を取り入れた施設整備に取り組むこととしております。
34	『その他のサービスに関するご意見』 ・スタンプラリーを常設で作り、子供から大人まで、一緒に楽しんでもらう。全ての場所を回り、スタンプが完成したら、荒尾の特産品やマジックキーのグッズをプレゼント。 ・「道の駅」でお買い物をするると色々なレンタル品やバス、タクシー利用がお得になる ・フリーWi-Fi の設置。現代人にとってスマホは必要であり、通信制限などもあるため、ゆっくりできる場所に Wi-Fi があると良い。	道の駅への来訪者に満足していただくための様々なサービスの導入が必要であると考えておりますので、基本計画において具体的な機能等を検討する際の参考にさせていただきます。 なお、P19、P20、P39 におきまして、無線LANをはじめとする、利用者の利便性向上に資するサービスについて記載しております。

【道の駅整備における今後の課題及び道の駅の管理運営に対するご意見】 P41		
35	民間の力の活用は良いが、民間に丸投げではなく、役場職員の研修を現地で行い、最終的には役場職員だけでも利益が確保できるほどの形態にしてみたい。窓口対応や接客方法、職場環境整備に関するノウハウについて、役場に活用できる可能性のあるものは、可能な限り役場に持ち帰って実践しても差し障りないような契約にしてみたい。 近年、役場職員の派遣化が進み、ベテランの専門家が失われつつある。この選定においても、事業委託の後、納税してもらって終わりの関係ではなく、役場職員も高度化するための研修制度も含めた契約を取り付けるべきだと強く思う。	道の駅の運営については、官民連携によって行うことを想定しており、基本計画において、さらに具体的な手法等について検討を行うこととしております。 いただいた意見については、市職員の研修にも関わることとして、参考にさせていただきます。 なお、P41 におきまして、民間の活力導入について取り組んでいくこととしております。
36	まず収支は黒字であることが前提であり、安定的に採算を確保するシステム構築が必要。 消費者の考えを吸収するために、WEBアンケートやSNSなどWEBツールを利用したりリアルタイムの情報発信と市場調査を行う。マーケティングに利用するため複数年度に渡る予算確保が必要。このマーケティングにおいても、市外の企業に委託する場合には、市内企業へ最終的な技術移転が可能な契約形態をとり、ソフト面での自給自足ができるようにしてほしい。	基本計画の策定に当たっては、安定的な経営が確保できるよう十分な調査を行ってまいりますので、調査手法等について、いただいたご意見を参考にさせていただきます。 また、地域経済循環の観点などからも市内企業の事業参入は重要であると考えております。 なお、P41 におきまして、市場調査に取り組むこととしており、また、P4、P19、P25、P27 におきまして地域経済循環について記載しております。
37	近隣自治体や、商業施設との連携は絶対に必要である。他所との連携を図るためには、消費者視点の連携を目指すべきだと考える。 例えば、低所得者層や子育て世帯への支援の観点で言えば、地域振興券の相互利用。地場ICカード（SUGOCA、NIMOCAなど）の利用など、出来る限り地域の決済システム・金融インフラを優先にできるような仕組みづくりが地域を潤すことに繋がると考える。一定の負担と利益を地域で共有し、中央に依存しない、持続可能な経営に持ち込んでほしい。	道の駅においては、あらゆる機関や団体との連携が重要であることと認識しておりますので、基本計画等において管理運営方針を検討する際の参考にさせていただきます。 なお、P41 におきまして、関係団体や関係機関及び他道の駅との連携について、取り組むこととしております。